

父と一緒に仕事をするのが、一番近い夢。
患者さんから信頼され選ばれる歯科医師になりたい。

山岸さんの一週間

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
9:00 ~ 10:30	歯科放射線学 12・13	歯科薬理学8	小児歯科学 13・14	口腔外科学 13・14	口腔衛生学 12・13
10:40 ~ 12:10	歯科放射線学 12・13	口腔組織学10	小児歯科学 13・14	口腔外科学 13・14	口腔衛生学 12・13
昼食					
13:10 ~ 14:40	歯周病学13	口腔生化学7	保存修復学14	歯科麻酔学11	歯科矯正学12
14:50 ~ 16:20	総合講義演習	総合講義演習	総合講義演習	総合講義演習	総合講義演習
16:30 ~ 18:00	総合講義演習	総合講義演習	総合講義演習 ②	総合講義演習	総合講義演習
放課後	①				

①授業が終わると部活に参加する時も、「部活は家族」というキャッチフレーズの水泳部に入りました。

②国家試験対策に集中します。

※毎週月曜日は、ウィークリーテストなので、毎日の予習・復習は欠かせません。

※どの授業も、先生のご配慮が聞けて、目からウロコの時があります。

歯科医師の父に感謝する老夫婦の姿を見て、初めて歯科医師になりたいと思いました。

実家は歯科医院で、父は歯科医師です。でも小さい頃は、歯科医師になることは考えていなくて、中学生の頃までは進路も漠然としていました。高校2年生になって、文理選択を決めなければいけなくなり、いろいろ迷い両親に相談しました。歯科医師の父は、高校では最初は文系だったようですが、理系に変わったようです。私にも、自分で考えて決めなさいということで、それで責任を感じて、初めて真剣に進路を考えるようになりました。

3年生になった頃だと思うのですが、見知らぬ老夫婦がわざわざ父にお礼に来たことがありました。父は定期的に老人ホームへ訪問治療をしていて、その患者さんだったご主人が、父の治療で歯の状態がとてもよくなり、食事指導の効果もあって、寝たきりだった状

態から体力が回復して、自宅に戻ることができたそうです。

私はその話を聞いて、歯科医師はただ虫歯を治す程度の認識しかなかったことが恥ずかしくなりました。そして、歯科医師の仕事としての役割、その素晴らしさを知り、歯科医師になろうと思ったのです。他にもやりたいと思える仕事はありましたが、現実的に考えていかなければなりませんし、歯科医師は、必然的な流れだったのかもしれませんが、松本歯科大を選んだのは、ホテルのように快適な学生寮があったことと、学食がおいしかったことも、影響しているかな(笑)。

それから6年たって、今年、卒業の年を迎えています。普通の大学は4年制ですが、歯学部は6年制です。現在は歯科医師の国家資格試験の合格を目指して、受験勉強に集中しています。大学で学んだ歳月は、長くもありましたし、短くもありました。ただ歯科医師になるためだけではなく、人間としても成長するための時間でもあったように思います。

学ぶことの意義をしっかりと感じた6年間。いよいよ今年は、歯科医師の国家資格の受験です。

1年次では、教養科目を中心に、生物学や基礎的な生理学を学びます。教養科目では、英語などの語学や歯科医院を運営するための経営学など幅広く学びます。高校では生物が好きだったので、1年次の生物はおもしろかったですね。

2年次からは、歯科医師になるための専門科目が始まりました。歯や人体の基礎知識などをしっかりと学びます。生化学、薬品についての勉強も始まり、人体の解剖の実習もあるんですよ。

3年次になってからは、具体的に歯の治療方法の授業が増えていき、治療に使う材料や医療機器の実習が始まります。それが、4年次まで続きます。5年次になると、いよいよ実際の治療のための臨床実習が中心となります。そこでは大学病院に登院して、実際の患者様の介助などから臨床の現場を学びます。

歯科医師国家試験に合格すると、病院などの勤務医か研修医のどちらかを選ぶようになります。研修医は、1年の間実践的な経験を重ねることが目的で、その後大学病院などで継続

して研鑽を積んだり、開業を考える人たちも多いですね。

歯科医は、基本的にはすべての治療ができるのですが、最近はさらに専門性を持って勉強をするようになっていきます。たとえば子どもの歯科治療をさらに深く学ぶ小児歯科学や歯並びや骨格の異常を治す歯科矯正学などですね。歯科矯正学は、より専門性が必要になるので、最近は専門医を目指す歯科医師も増えてきました。私は専門的な勉強もしたいですが、総合的に患者さんを診れる歯科医師になりたいです。

使命感を持った歯科医師、選ばれる歯科医師を目指し、さらに自分の人生も豊かに過ごしたい。

私は歯科医師の家に生まれて、結局は歯科医師を目指すようになりました。それは、とても恵まれていることなのだ、今は思います。父は、高齢者の皆さんの歯科治療に熱心に取り組んでいます。私も、父のように使命感を持った歯科医師になりたいと思うようになりました。人生観としても、お金だけが目的ではなく、社会のため人のためになる仕事をしたいと思っていますし、そのためには、患者さんから信頼され選ばれる歯科医師になりたいと思っています。

東京などの大都市では歯科医院が多くなりましたが、長野県などの地方では、まだまだ歯科医師は必要とされていると思います。私はおいしいものを食べるのがとても楽しみです。高齢者になって、その楽しみが失われてしまうのは本当に残念なことです。私は歯の治療を通して、人生の楽しみや豊かな日々を支えていきたいと思っています。そのためにも、まずは実家に帰って父と一緒に「仕事」をするのが、一番近い目標ですね。そして、中学生の頃小説家になりたかったので、いずれば趣味で小説も書いてみたいですね。



歯学部 歯学科
平成20年3月卒業
笠原 隼男さん

松本歯科大学 勤務
歯科補綴学講座

大学の学びは、臨床に直結する内容でしたので、満足しています。

1.現在どんなお仕事をされていますか？
患者さんの歯科治療や歯学部学生の実習指導、および臨床研究を行っています。

2.学校での勉強は、どんな風にかかれていますか？
そのまま臨床に直結する内容でしたので、診療の際にはこの上ない助けとなっています。

3.今後の目標は、何ですか？
知識・技術をさらに身につけて、患者さんの心のよりどころとなれる歯科医師になることが目標です。

4.高校生へのメッセージをお願いします。
希望や不安が入り乱れて大変な時期だとは思いますが、頑張ってください。自分の道を見つけ出してください。

高校生
リポーターの感想

歯学部は専門性が高く、知らないことが多かったため、授業内容や資格を取るためのお話がたくさん聞けて楽しかったです。山岸さんが言うように「利益が少なくても絶対的に必要な役割を果たしたい」と私も思いました。

(黒田 陽子さん)

<取材参加者>
●松本嶺ヶ崎高等学校
黒田 陽子さん (1年)
永原 美月さん (2年)
中村 秋音さん (2年)

